

## 1. Introduction

最近のスポーツのニュースではメジャーリーグで活躍する大谷翔平選手が取り上げられることが多いです。メジャーリーグで活躍した日本人選手は他にも野茂英雄選手、松井秀喜選手などがいますが、私はマリナーズなどで活躍したイチロー選手をとても応援していました。今回のレポートではイチロー選手の打撃成績からイチロー選手がメジャーリーグで10年以上活躍できた理由を考察します。

## 2. Method

まず、イチロー選手のシーズンの安打数を月ごとにまとめ、それをメジャーの選手の平均と比較することで、長期的に見た時のイチロー選手の特徴を調べます。次に、イチロー選手のコース別の打率からピッチャーがどのようにイチロー選手と対戦したかを調べます。

## 3. Result

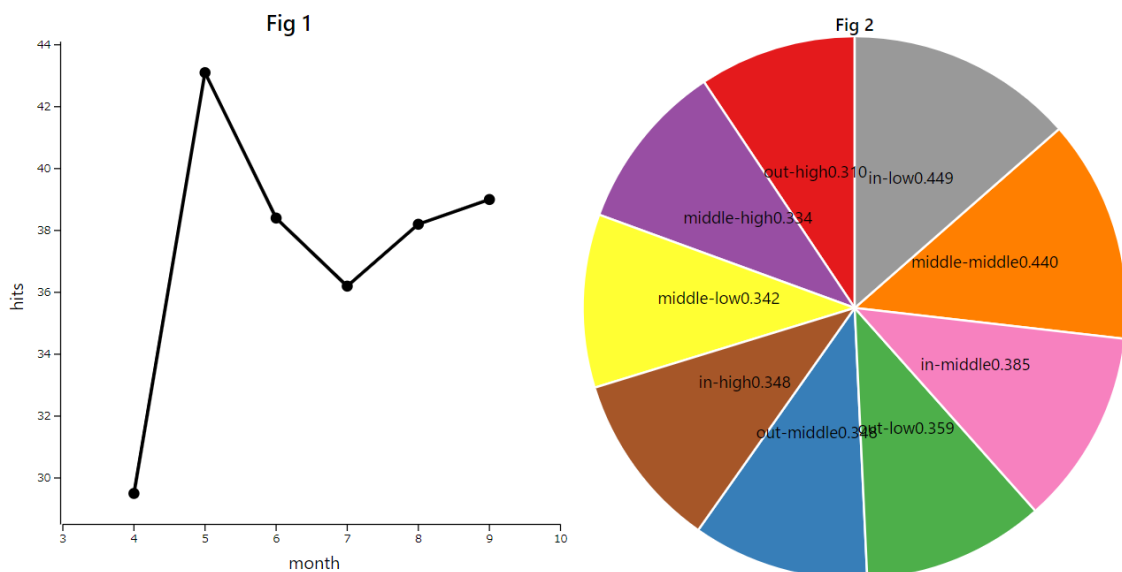


Fig1 は2001年から2010年のシーズンのイチロー選手の月ごとのヒット数です。Fig2 は2001年から2010年のシーズンのイチロー選手のストライクゾーンのコース別の打率です。

#### 4. Discussion

Fig1 からイチロー選手はシーズンを通してヒットを打ち続けていることがわかります。また、イチロー選手はシーズン後半になっても月ごとの安打数がほぼ一定になっています。シーズン後半になると疲れが溜まってきて調子が悪くなることや怪我で離脱する選手が多いため、シーズンを通して一定の成績を保ち続けるのはメジャーだけでなく日本のプロ野球でも難しいことです。イチロー選手は練習がストイックなことで有名ですが、野球の技術だけでなく日頃の体調管理にも練習が活かされており、シーズンの後半でもパフォーマンスを落とさず活躍できたのではないかと考えられます。

Fig 2 からイチロー選手は苦手とするコースがほとんど無く、打率が1番低い外角高めでも0.310です。一般的にバッターは自分の得意なコースがあり、基本はそのコースに狙いを絞ってヒットを打つことが多いです。しかし、Fig2 からイチロー選手はコースを絞らずに打てると思ったボールをヒットにしていると思われます。このことからイチロー選手と対戦するピッチャーはどういう戦術でイチロー選手を打ち取るかが定まらず、自分の得意な攻め方に頼るしかなかったと思われます。また、イチロー選手は敢えて相手投手の決め球をヒットにすることで、自分が出塁するだけでなく相手投手の心を不安にさせることを狙っていたのではないかと考えられます。個としての活躍だけでなくチームがいかにして勝つかということも考えながらプレイしていたのではないかと推測できます。

#### 5. Conclusion

データから、イチロー選手は単に野球が上手なだけではなく体調管理や戦術の面でも優れていたためメジャーでも活躍できたのではないかと考えられます。また、この課題ではイチロー選手の打撃に関する特徴を調べましたが、イチロー選手は他にも足の速さを活かして内野安打や盗塁を仕掛けることもでき守備も定評があったので、打撃に関するデータ以外でもイチロー選手が活躍できた理由があると考えられます。

#### 6. Reference

<https://www.fangraphs.com/>